

ハリケーン対策

ワシントンDC, メリーランド州, バージニア州の在留邦人および短期渡航者の皆様へ

◎本資料は当地在留邦人の皆様のハリケーン対策の一助となるよう、当館において一般的事項をまとめたものです。米国関係機関が作成する各種資料も併せて参照の上、各自の状況に応じたハリケーン対策にご活用いただければ幸いです。

◎本資料には短期渡航者の皆様にも有益な情報が含まれています。ハリケーン・シーズン(6月～11月)に当地に滞在される方はご参考としてください。

◎この資料に関し、ご意見やお気づきの点があれば、当館領事班・邦人安全対策係へご連絡願います。なお、本資料に基づき行動したことにより生じるいかなる損害や不利益等に対し、当館は責任を負いかねます。



在アメリカ合衆国日本国大使館(領事班)

TEL 202-238-6800 / EMAIL emb-ryoji@ws.mofa.go.jp / HP www.us.emb-japan.go.jp
2520 Massachusetts Ave., NW, Washington, D.C. 20008

この資料の電子版はこちら→

在米大使館 ハリケーン対策

検索



1 ハリケーン概要

(1)ハリケーンとは？

「ハリケーン」は台風と同様に熱帯低気圧(Tropical Cyclone)が強まることにより発生する自然現象です。大西洋北部、太平洋北東部等で発生した熱帯低気圧のうち、最大風速が約 74 マイル毎時(119 キロメートル毎時)以上にまで発達したものを「ハリケーン」と呼びます。

米国東南部では、毎年 6 月から 11 月の間が「ハリケーン・シーズン」とされ、特に夏場の 8 月から 10 月に集中して発生します。

ハリケーンがもたらす暴風・大雨・強力な低気圧は、洪水・鉄砲水や土砂災害、高潮災害等を引き起こし、これらにより、建物の倒壊や浸水、停電や断水といったライフラインの断絶、交通・通信インフラの寸断、飲料水や食料品、燃料の不足等が発生する可能性があります。

(2)米国における熱帯低気圧およびハリケーンの区分

区分		最大風速		参考：台風の区分 ※台風は 10 分間平均の最大風速によって強度を識別	被害の程度		
		mph	m/s	m/s			
		マイル/時	メートル/秒	メートル/秒			
※1 分間平均の最大風速によって強度を識別する「シンプソン・スケール」による							
熱帯低気圧 (広義) Tropical Cyclone	熱帯低気圧 (狭義) Tropical Depression	38 以下	17 以下	「熱帯低気圧」	—		
	熱帯暴風雨 Tropical Storm	39 ~ 73	18 ~ 32	「台風」 (17 以上 33 未満)			
	ハリケーン	Category 1	74 ~ 95	33 ~ 42	「強い台風」 (33 以上 44 未満)	建物への被害はないが、木の枝が折れたりする。	
			Category 2	96 ~ 110		43 ~ 49	「非常に強い台風」 (44 以上 54 未満)
		Category 3		重大ハリケーン Major Hurricane	111 ~ 129	50 ~ 57	
			Category 4		130 ~ 156	58 ~ 69	
		Category 5		157 以上	70 以上		

(3)ハリケーン関連用語

Hurricane	ハリケーン	風速が74マイル(時速約119km)以上の暴風雨。
Hurricane Watch	ハリケーン注意報	ハリケーン圏内に入る48時間前に発出される。
Hurricane Warning	ハリケーン警報	ハリケーン圏内に入る36時間前に発出される。
Tropical Storm (TS)	熱帯暴風雨	風速が39マイル以上73マイル(時速約63km~118km)以下の暴風雨。
Tropical Storm Watch	熱帯暴風雨注意報	暴風雨圏内に入る可能性が48時間以内にある場合に発出される。
Tropical Storm Warning	熱帯暴風雨警報	暴風雨圏内に入る可能性が36時間以内にある場合に発出される。
Tropical Depression (TD)	熱帯低気圧	風速が20マイル以上39マイル(時速約32km~61km)未満の暴風雨
Tornado	トルネード (竜巻)	風速が40マイルから318マイル(時速約64km~512km)に達する竜巻。
Tornado Watch	トルネード注意報	トルネードが発生する可能性がある場合に発出される。
Tornado Warning	トルネード警報	トルネードが発生した場合に発出される。

2 ハリケーン対策

(1) 対策のポイント

ア 情報収集に努めましょう。

- ハリケーンの被害からご自身と家族の身を守るためには、情報が最も重要です。インターネットやテレビ、ラジオ等により、各自情報収集に努めましょう。
- 情報収集に当たっては、お住まいの地域のローカルニュース(気象情報)の他、連邦・州・地方の関係機関が発する情報が重要になりますので、予め関係機関のホームページやソーシャル・メディア(ツイッター、フェイスブック等)を把握しておきましょう。

「米国関係機関のハリケーン情報入手先一覧」(6頁)参照

イ 備蓄品と緊急避難キットを確認しましょう。

- 停電・断水等ライフラインの断絶や飲料水・食料品・燃料の不足等に備え、自宅に留まる場合でも必要となる備蓄品(飲料水、食料、懐中電灯、予備電池等)を十分に確保しましょう。また、当局の指示で避難する場合の「緊急避難キット」を予め検討・準備しておきましょう。

「備蓄品・緊急避難キット(例)」(7頁)参照

ウ 自宅の洪水リスクを確認しましょう。

- ハリケーンの接近・上陸により最も注意すべき被害の一つは洪水です。特に最近当地にいらした方は、お住まいが洪水被害を受けやすい地域に所在しているかどうか、過去のニュースで被害状況を確認したり、近所の方に話を伺ったりし、予め確認しておきましょう。

(注)FEMA(連邦緊急事態管理庁)は洪水ハザードマップを公開しています。

⇒ <https://msc.fema.gov/portal/search>

- バージニア州およびメリーランド州では、沿岸地域を中心に、ハリケーン(暴風雨)・洪水に対し脆弱な地域の格付けを行っています(「KNOW YOUR ZONE」)。お住まいの地域がどの格付けに該当するのか、予め確認しましょう。

<各州の KNOW YOUR ZONE>

- ・バージニア州 <http://www.vaemergency.gov/hurricane-evacuation-zone-lookup/>
- ・メリーランド州 <https://mema.maryland.gov/Pages/know-your-zone-md.aspx>

(2) 危機段階別の対策

<平時(事前)の備え>

- 備蓄品、緊急避難キットの確保
- 避難ルート、避難場所の確認
- 貴重品保管場所の検討 ⇒ 浸水等の被害に遭いにくい場所に保管

<ハリケーンの接近・上陸の兆候がある場合(注意報が発せられた場合)>

- 情報収集
- 備蓄品・緊急避難キットの用意
- 生活水の確保 ⇒浴槽やバケツ等に水道水を貯める
- 自宅周辺の確認 ⇒暴風雨に備え,自転車や植木鉢などを屋内へ
- 車のガソリンを満タンに ⇒避難に備え,ハリケーン上陸前に給油。ガソリンスタンドは閉鎖することも
- 自宅周囲および窓の補強

⇒ホームセンター (hardware store)にて,土嚢 (sand bags)やベニヤ板 (plywood),ブルーシート (waterproof poly tarp)は購入可。

<ハリケーン通過中>

- 屋内の安全な場所に待機
⇒窓・ドアから離れる(窓がない部屋が理想的)。外出は危険(倒木,屋根・看板等の飛来物ほか多くのリスクあり)
- 情報収集 ⇒避難指示が発せられたら即座に行動できるように
- 避難準備
- 停電時は電化製品の電源を OFF に
⇒復旧時に機器が故障したり火災に発展する危険性があるため,可能な限り電源プラグを抜いておく
- 停電中の冷蔵庫開閉は最小限に
⇒一度も開閉しない場合でも,停電から2~3時間で庫内温度上昇が始まる。予め保冷剤を凍らしておき,停電発生時に凍った保冷剤を冷蔵庫へ移すことも一案

<ハリケーン通過後>

- National Hurricane Center からの警報解除「All Clear」の発表を待つ。

(3) その他注意点

- ア お住まいの地域に当局からの退避指示が発せられた場合は,自宅を施錠したうえで,当局の指示に従い落ち着いて行動してください。避難にあたっては,自宅玄関(外側)に避難場所および連絡先を表示することをお勧めします。また,安全が確保され次第,ご自身の安全について,日本のご家族や身内の方,職場,そして当館へもご連絡ください。
- イ ハリケーン通過中の外出は非常に危険です。やむを得ず外出(運転)中に冠水した道路に遭遇した場合,無理に進まず折り返しましょう。
- ウ ハリケーン通過後もしばらくの間は様々な危険が潜んでいますので,不要不急の外出は控えましょう。やむを得ず外出する場合は以下に留意してください。
 - 車で移動する際は,電線や倒木,倒れたフェンス,その他障害物に十分注意し,予測運転を心がける。原則,水たまりには入らない。切れた電線が落ちてきても停止せず運転する。徒歩で移動する際は,これらの他,ガラス片などの破損物にも十分注意する。
 - ガスや化学品の匂いがしたら,速やかにその場を離れる。
 - 増水で道路と水路の境界が判りづらくなるため,道路中央を走行し転落防止に努める。
 - 身分証明書を携行する。
- エ ハリケーン被害の影響により水道水が汚染される可能性があるため,ハリケーン通過後も,「Boil Water Order」(煮沸命令)が発令されていないか確認する。

米国関係機関のハリケーン情報入手先一覧

<ハリケーン対策マニュアル>

- 連邦緊急事態管理庁 (FEMA) <https://www.ready.gov/hurricanes>
- コロンビア特別区 (Ready DC) <https://ready.dc.gov/hurricane>
- メリーランド州緊急事態管理局 (Maryland Emergency Management Agency : MEMA)
<https://mema.maryland.gov/Documents/MDHurricaneEvacGuide.pdf>
- バージニア州緊急事態管理局 (Virginia Department of Emergency Management : VDEM)
<https://www.vaemergency.gov/wp-content/uploads/2018/06/Hurricane-Preparedness-Evacuation-Guide-Electronic-Use-OnlyWebsite-Embed-2.pdf>
- ナショナル・ウェザー・サービス ハリケーン対策啓発動画
<https://www.weather.gov/wrn/2018-hurricane-preparedness-videos>

<緊急情報の受信> ※地方政府（郡、市町村）が発する情報も重要です。各自ご確認ください。

- コロンビア特別区
 - ・「Alert DC」登録: <https://hsema.dc.gov/page/alertdc>
 - ・DC Homeland Security (ツイッター) https://twitter.com/DC_HSEMA
- メリーランド州
 - ・MEMA アプリ「Maryland Prepares」 <https://mema.maryland.gov/Pages/mdprepares.aspx>
 - ・MEMA ツイッター <https://twitter.com/mdmema>
- バージニア州
 - ・VDEM ホームページ www.vaemergency.gov/hurricanes/ ※サイト内に緊急メール受信登録ページあり
 - ・VDEM ツイッター <https://twitter.com/vdem?lang=en>

<気象情報> ※各地のローカルニュースもご確認ください。

- ナショナル・ウェザー・サービス <https://www.weather.gov/>
- ナショナル・ハリケーン・センター <https://www.nhc.noaa.gov/>

<ユティリティ事業者（一例）>

- 電力会社
 - ・PEPCO <https://www.pepco.com/Pages/default.aspx>
 - ・DOMINION <https://www.dominionenergy.com/outage-center>
 - ・BGE <https://www.bge.com/Pages/default.aspx>
- ガス会社
 - ・Washington Gas <https://www.washingtongas.com/#>
 - ・BGE <https://www.bge.com/Pages/default.aspx>
 - ・Virginia Natural Gas <https://virginianaturalgas.com/>
- 電話会社
 - ・VERIZON <https://www.verizon.com/>
 - ・AT&T <https://www.att.com/>

備蓄品・緊急避難キット（例）

<備蓄品>

避難に至らない場合でも、ハリケーン被害により、お住まいの地域の水道・電気等のライフラインが断絶し、飲料水や食料品の供給が一時的に途絶えることを想定（5～7日間を想定）し、以下の備蓄品を平時から確保しておくことをお勧めします。

- 飲料水（1日1人あたり1ガロンが目安）
- 保存食（缶切り、使い捨ての食器類も）
- 電池式携帯ラジオ、
- 懐中電灯、ろうそく、マッチ、ライター
- 予備電池（モバイルバッテリー）
- 現金（停電によりATMが使えない場合がある）、小切手
- ベビー用品（粉ミルク、紙おむつ、哺乳瓶、薬等）
- ペット用品（ペットフード等）
- 救急箱（絆創膏、包帯、消毒液等）、常備薬、処方薬
- ゴミ袋
- ウェットティッシュ

<緊急避難キット>

避難に備え、上記備蓄品に併せ、以下を用意しておくことをお勧めします。

- 着替え、合羽やポンチョ等の雨具（防寒具兼用）
- 毛布、寝袋
- 自宅と自動車の予備キー
- 家族との緊急時の集合場所を記したメモや周辺地図
- ホームドクターの連絡先
- 家族全員の健康・医療情報（持病やアレルギーは英訳文も用意）
- 旅券、写真付きID、保険証など重要書類（コピーも別に携行）
- 警笛
- 石けん、歯ブラシ等の衛生管理用品
- トイレットペーパー、キッチンペーパー
- スニーカー等の丈夫で歩きやすい靴
- 防塵マスク
- 予備の眼鏡
- 虫除けスプレー、
- ヘルメット（あれば安心）、ロープ
- 工具、文房具（はさみ他）など

※以上は一例です。各自の状況に応じ、必要な物品を検討してください。